

政務活動費活動報告（研修）

(1) 研修名：

第14回全国市議会議長会フォーラム

(2) 参加者：

赤井 康彦、小川 吉則、森田 充

(3) 日時・場所：

令和元年10月30日（水）・31日（木）・高知ちばさんセンター

【1. 研修目的】

全国自治体の議会改革の取り組み事例を学び見識拡大を図り、彦根市議会においても横展開を実施する為。

【2. 結果報告】

内 容 と 考 察

●基調講演「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

中島 岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

東京工業大学教授 中島岳史氏の講演は、現代政治のマトリクスーリベラル保守の可能性という一見難しい内容の講演かと思われましたが、現代政治の方向性や自民党の中での人物分析など、大変興味を持って聞くことが出来ました。

ポピュリズムの中には、タウンミーティングなどの政治参加を促す熟議デモクラシーと、対抗軸から真っ向に挑む闘技デモクラシーがあり、前者が立憲民主党、後者がれいわ新鮮組であるとの説明があり、民衆は自分の声が反映されないとすぐに離れていく傾向があるとの説明にも納得できた。

こうした日本の政治の歴史を振り返ると共に、フランス革命が理想の高い志から生まれた革命であったが、人々の生活にとってとても窮屈なものであったことから、100点満点の政治を求めることより、「60点の政治」から少しずつ改善していくことの必要性を訴えておられた。理想は掲げつつも市民ニーズにも応えるには、永遠の微調整の中での判断の必要性があることをこの講演で感じました。

●パネルディスカッション・課題討論

坪井ゆずる氏（朝日新聞論説委員）をコーディネーターに迎え進められた。

「議会活性化のため船中八策」というテーマで各界有識者が報告されました。

まず初めに、高部 正男氏（市町村職員中央研究所所長）から述べられ、その中で今後の地方自治体議会のあり方について述べられ、「多様な人材の市議会への参画促進」が重要とのお話がありました。

地方自治を円滑に運営していくには多彩な人材が真摯に議論していくことが重要と感じました。

次に、横田 響子氏（株式会社コラボラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員准教授）から議会改革の具体的アイデアを述べられました。①中長期視点で街の目指す方向を議論、人口

減を前提に！②ガチンコ会議を多様な人材で③経験の機会提供の3つの提案をされ、その中でも③経験の機会提供は、市民参加型、協働&協創、公共私ベストミックスなど非常に重要なキーワードだと感じました。

さらに、古川 康造氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）より「高松丸亀町まちづくり戦略」について述べられ、住宅整備とテナントミックスは車の両輪との考えのもと推進されたと聞きました。住宅整備においては、快適に生活できる街づくり、テナントミックスの選定においては生活者目線で行き組まれたとも聞き、やはりまちづくりは住民（生活者）が主役でないといけないと再認識しました。

最後に田鍋 剛氏（高知市議会議員）より、高知市議会の概要報告がありました。

翌日（10月31日）は滝沢 一成氏（上越市議会議員）、久坂くにえ氏（鎌倉市議会議員）、小林 雄二氏（周南市議会議員）の3名から議員の観点から「なり手不足」について述べられました。

上越市議会においては「議員を目指しやすい環境整備」への5つの大項目、19の小項目で構成する提言を答申し推進されていました。やはり議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力であるとの言葉が印象に残りました。

また、久坂鎌倉市議会議員は、女性議員にとって会議規則などがまだまだ不明確な部分が多く「女性のなり手不足」の一因となっていると述べておられました。

多彩な人材確保の観点からも議会改革を推進し議員の魅力を様々な方に伝えていく必要があると感じました。